

| | | |
|---|--|---|
| おくのほそみち ～ 選ぶということ ～ 一步目：私の内にある‘絶対’ | | 5 |
| | | |

「奥野さん、これ絶対良いと思うから読んでみて！損はさせません！！」と言われて、本を渡されたことがある。とりあえず、受け取ってみたものの、その本は今も渡された時のままの袋に入って、本棚の片隅に横たわっている。

人に対して何かを薦めることが苦手な私にとって、この場面は新鮮だった。それを断らずに受け取ったことは、ただ‘断るのが苦手’というだけではないような気がしている。さらに、それを袋に入れたままとは言え、捨てないでいることも‘なんなんだ自分？’と、思う。

落ちなくなってきた。‘ここから考えたいことは何なのか？’と。改めて考えてみると、やっぱり「選ぶということ」に辿り着く。おそらく、今回のマガジンで書いた内容が「選ぶということ」に辿り着くには少し時間がかかると思う。でも、今の私の中にある大切なテーマであることは間違いない。

今回のマガジンでは、「選ぶということ」に向かうための一步目として「私の内にある‘絶対’」について書いてみました。

1. 私の内にある‘絶対’

私は「絶対」という言葉を絶対だとは思わない。だって、絶対なんてことは絶対はないと思うから。絶対だと思っていたことが絶対でなかったことがあるから。だから、私が絶対という言葉を使うことはほとんどない。ここで‘ほとんど’と言う言葉を使ってしまうのは、‘絶対’という言葉を決断に使わない、ということもないからだったりもする。

こんな私はその言葉を使う時は、「(絶対なんてことはないけど) 絶対に～～…」という場合と「(そうならないかもしれないけど) 絶対に～～…」という場合と「(120%

～ はじめに ～

今回のマガジンでは、「選ぶということ」について書こうと思っていました。ただ、いざ書き進めてみると何だか話が脱線してしまう。だから、テーマを消してみたり、書きなおしてみたり、空欄のまま書き進めてみたり、とふらふらしていた。

少しずつ自分が書きたい内容の輪郭がはっきりしてきた時に書いたテーマは「私の内にある‘絶対’」でした。‘うん、うん、これこれ’といった感じに書き進めていたものの、終盤に近付くにつれて何とも腑に

の自信を持って) 絶対に～～…」という場合があるように思う。

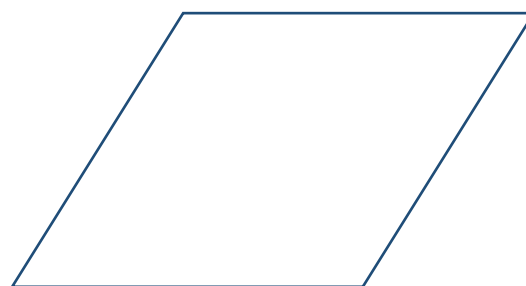
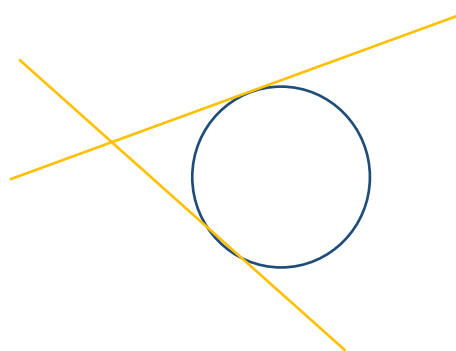
● (絶対なんてことはないけど)

絶対に～～…●

小学何年生の時かは忘れたが、私は 3～4 年くらいの時に自分の目の前にあるものを信じられなくなったことがある。そのきっかけは、ある映画だった。それは、エイリアン的なものが地球を襲いに来る映画だった。映画の最後の方で、世界を救ったヒーロー的な二人組が地球人のエイリアンやその時に関する記憶をなくすためにマジックっぽいことをした。すると、地球人のその記憶はなくなり、またいつもの日常に戻る、という場面があった。私にとってその光景は衝撃だった。「もしかしたら、自分はたった今、今までの記憶だと思ってることを持って生まれただけなのかもしれない…」、「もしかしたら、明日になったら違う誰かになってるかもしれないし、今までのことは全部忘れてしまうかもしれない…」、「もしかしたら、今は夢なのかもしれないし、起きたら本当は違う誰かなのかもしれない…」、「もしかしたら、まばたきしてるうちにみんなこっそりエイリアンに戻ってるかもしれない…」、「もしかしたら、こんな風に考えてることがみんなにも聞

こえてるかもしれない…」、「もしかしたら、誰かにこんな風に思わされているだけかもしれない…」、「もしかしたら、… ……」と、もしかしたらループに一人で迷い込んでいた。こんなことを誰かに相談できるはずもなかった。だから、そのせいで、シャンプーをしていてもできるだけ目をつぶらないように頑張ったし、突然後ろを振り向いて母親が油断してエイリアン姿になっていないかを確認めようとしたりもした。毎回失敗していたけど、それは誰かにとって、もしかしたら私にとってさえも成功だったのかもしれない。

「そんなこと…」と、笑う人がいるかもしれない。だけど、それと同じくらい「そうやんね!」と、思ってくれる人もいるんじゃないかと思ってしまう。私にはいまだによくわからない。「まばたきをしている間の世界を見ることなんて出来ないのに、なんでまばたきの後も同じ世界の続きを見られると思えるんだろう?」と。「なんで、一周回ったこともないのに、地球が丸いと思えるんだろう?」と。だって、地球が本当に丸かったら‘水平’ってよくわからなくないですか? 球体の上に水平があるってなに? 球体の上で引いた水平線のその先は、球体の外縁と少しずつ離れていくんじゃないんですか?



と。たぶん、何かしらの学問を駆使すると、この疑問の一部は晴れるのかもしれない。そして、その一方で何かしらの学問を駆使すると、この疑問の一部はより深くなるのかもしれない。

私にとっての「絶対」は、私の中にしか存在しない。だから、私の外にその「絶対」を放り投げる時、その前に（絶対なんてことはないけど）をつけてしまうのかもしれない。



●（そうならないかもしれないけど）

絶対～～…●

こんな私が自分の外に‘絶対’という言葉放り投げる時、たぶんとても自信なさげにしていると思う（自分の自信のなさに対する自信はある、とは思う）。例えば、仕事で何かを相手に提案する時「私は絶対こっちの方が良いと思うんですけどね…」と、私は言う。だけど、今まで書いてきたように私には絶対を絶対だと思えない部分があるので、絶対と言いつつもそれを強要することは（ほとんど）ない。だから「私は絶対こっちの方が良いと思うんですけどね…〇〇さんはどう思います？」と、なる。他のパターンなら「私やったら絶対こうはしないけど…」とかもある。後者に関しては、自分の中にある‘絶対’を伝えているだけで、相手に自分の‘絶対’を渡そうとしている訳ではない。だから、やや意識的にその

言葉の主語を「私」にするし、主語が「私」であることをどこかしら意識しているし、それを省略して言うことはあまりない。

私の中にあるモノやコトが絶対であるという確信があったとしても、私の外にそれが出ていった瞬間、それが絶対に‘絶対’になるかどうかはわからない。それを受け取った人がどうするか次第だと思う。だから、私の外にその「絶対」を放り投げる時、その前に‘（そうならないかもしれないけど）私ば’をつけてしまうのかもしれない。

●（120%の自信を持って）絶対に～～…●

これを私は、「無駄な自信」と呼んでいる。私は、昔から無駄に自信があることがある。それは「自分は絶対に幸せになる」という「無駄な自信」だ。これは、ある種の確信でもある。「根拠はないけど、だいじょーぶ！！だって、大丈夫やから♪」みたいな感じ。たまに、自分のふり幅の大きさに戸惑うが「自分は絶対に幸せになる」という「無駄な自信」のおかげで、何かしら楽しみながらやれている。

要するに、どんなことに対してもこの「無駄な自信」があれば無敵になれる、ような気がしているのだ。実際、そう簡単にはいかないのだけれど、根拠がなくてもそれを生み出すことさえ出来れば、ほぼ無敵だ。つまり「無駄な自信」にとって、それらしい根拠はあまり重要ではない。そもそも‘無駄な’のだから。

大学時代、効率よく勉強をする人、テストのための勉強にだけ一生懸命になる人があまり好きではなかった。‘どうせやったら近道の方が良いやんっ’的な空気を

勝手に感じ、反抗したい気持ちになっていた。自分の興味があることを調べつくすことが好きだった私は「無駄なことにこそ意味がある!!」、「無駄があるから、無駄じゃないもあるんやで!!」とか、密かに熱く思っていたし、たまには声高にそれを言ったりもしていた。

私にとってなんてことないことで悩んでいる友だちには「大丈夫って100万回言ってみ！そんな意味のないことをやり遂げられる人は凄いなと思うし、100万回も言おうとしたら、たぶんどこかのタイミングで大丈夫な気になってくると思うし、そんな意味のないことって思うんやったら結構正しい判断ができてると思うから、たぶんだいじょぶやと思うで！」と、適当かつ少しだけ真面目に言っていた。本気でこれに挑戦しようとした友だちが一人だけいて、真剣に悩みを聞こうと急に焦った私が笑われて、その場は流れていった。

「そんなもんか」とも言えるけど「そんなもんが」とも言える。誰かにとっての「そんな」が、他の誰かにしてみたら「それが」になってることもあるし、その逆もある。それらしい根拠はあまり重要ではないけれど「それらしい根拠がないのに大丈夫だと思える」ということがとても重要だったりもする。少なくとも、私にとってそれはとても重要だ。

「絶対」という言葉を絶対だとは思わない私が無責任にこの言葉を放り投げる時、そこには「無駄な自信」があり、自分の無責任さに責任を持つという控えめかつ頼りない心意気があったりもする。

～ 終わりに ～

ふらふら書き進めていた今回のマガジンは、この辺りで終わりにしようと思います。今、頭に浮かんでいるだけでも「選ぶということ」をテーマにあと二～三步は必要なんじゃないかなと思っています。

日々色々なことを選んだり、決めたりしながら生活をしていると思う一方で、そうではない感じで生活が成り立っている部分もあるように思います。ただ、そう思いながらも主語「私」を意識する中で「選ぶということ」は、大切なことのように感じています。主語「私」を意識していることについてどこかで書いたら良いなと思いますが、まずは「選ぶということ」について書き進めていこうと思います。途中で他のテーマに移りたくなったら、横道に逸れながらも地続きの道を進んでみようと思います。今後も引き続きよろしく願いいたします。

📖 おくのほそみちのこれまで 📖

第24号 新連載決意表明

(「執筆者@短信」にて)

第25号 リハビリテーションのこと

第26号 ‘リハビリテーションが行なわれる場’ について考える前に

第27号 ‘リハビリテーションが行なわれる場’ について考える前に 二歩目；〇〇〇と私

第28号 ‘リハビリテーションが行なわれる場’ について考える前に 三歩目；‘あなた-私’ という 関係 によって変わる ‘場’